

取組名称	ホームセンター店舗をハブにした「園芸用土の水平リサイクルシステム」の構築			団体設立後の経過年数	35年目
応募取組主体名称	株式会社カインズ	活動地域	京都府亀岡市	応募取組の活動年数	2年目
取組主体の種別	企業 / 学校 / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門（概ね30代以下の次世代を担う若手が中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください） / その他				
応募取組に関連する実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワーメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとづくり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への想いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXPO2025 いのち動的平衡賞				



取組の要旨

園芸用土の適切な処分方法が多くの自治体で未整備で、家庭ゴミに混入排出されるなど課題になっている。一方、土資源は有限な地球資源であり、循環利用が求められている。多様な園芸用品を販売するカインズは、自治体と連携して店舗を不要な園芸用土の回収拠点とし、メーカー連携で再生処理した循環型培養土の製品開発を行い、店舗で再販売する仕組みを構築。自治体・市民・企業が連携して実現する業界でもほぼ初めてとなる恒常的な「園芸用土の水平リサイクルシステム」を構築。店舗展開を開始。

実績の要旨

令和4年度に、本システム導入1号店であるカインズ亀岡店で約37トンの園芸用土を回収。この土はメーカーにて再生処理され、令和6年度に31,000袋の循環型園芸用土として生産予定で進行中。本システムの導入により、市民から自治体への古土処分に関する問い合わせが大幅に減少。

取組評価の要旨	環境への貢献	日本では、年間東京ドーム1.5杯分の“地球を削って”土を”生産している”と言われている。不要な園芸用土を循環培養土として再生・販売することで、貴重な土資源の循環利用を促進し、廃棄物削減に貢献。
	社会・経済への貢献	不要な土処分に困っていた市民に解決策を提供、自治体の処理コストと低減。再生園芸用土の販売を通じて新たな企業の収益向上を見込む。
	地域資源の活用	地域で発生する廃棄物を資源として有効活用することで、地域内での資源循環に貢献。
	普及・汎用性	カインズの最大240店舗で展開可能なシステムであり、業界標準としての展開も今後は可能。
	革新・ユニーク性	市民・自治体・企業が連携して土資源を循環利用する「園芸用土の水平リサイクルシステム」という業界でもほぼ初めてとなる仕組み
	継続性	店舗の恒常的なサービスとして展開。自治体との官民連携で「まちの土回収拠点」として店舗を指定し、啓発運用。

展望の要旨

サステナブルな園芸がサステナブルな日常のくらしの一部となるよう、市民が古土の処分に困らず、かつ持続可能な園芸用土の循環利用につながる、本「園芸用土の水平リサイクルシステム」を今後も他の店舗にも展開していく予定。いずれは業界標準になるように自治体・メーカー連携で推進。